学校にコンテンポラリー・ダンスがやって来る
県内254小学校での鑑賞教室をデザインするアートNPOの挑戦

髙橋るみ子（宮崎大学教育文化学部）

1. はじめに

芸術作品を対象とする美的体験（芸術鑑賞）は，出会いであり，「開いた体験」という性格をもつ．美的体験のなかでの発見は，まずは対象の特徴の発見だが，それを介して体験主体自身の発見にもつながる．美的体験のなかで，われわれは自らの好み，性格，感受性，思想などの自覚を得ることができる．主体のこの強い関与のゆえに，美的体験は価値にかわる[1)]．コンテンポラリー・ダンスの鑑賞も，出会いがあり，鑑賞者は，自らの好み，性格，感受性，思想などの自覚を得ることができる．[1)]

「学校にコンテンポラリー・ダンスがやって来る」は，宮崎の子どもたちに，コンテンポラリー・ダンスと出会い，自らを発見する美的体験の機会を与えることを目的に，昨年度から始動したプロジェクトである．今年度は，「みやざき学」として取り組んだ．

今年度の取り組みの背景について説明する．〈表1〉は，学部のホーム・ページ（教員紹介）に記載した今年度の研究計画である（一部修正）．

〈表1〉 平成21年度　研究計画

「人とかかわるダンス，地域とかかわるダンス」をテーマに，体育で取り扱うダンス学習の未来の形を，芸術的な側面から，実践的・実証的に追究します．「ダンスのある生活」が「音楽のある生活」と同じように，誰にも当たり前になることを期待して・・・．

1. 音楽と演劇を隔年で取り上げてきた鑑賞教室（小学校）で，「ダンス」を取り扱うことができるのか，その可能性を実践的に探ります．併せて，コンテンポラリー・ダンスの鑑賞が，子どもたちの表現の世界を拓く早道であることを明らかにします．平成20年度に通山小（川南町）で実施したダンス鑑賞教室を，平成21年度は，大東小（串間市）等で実施する予定です．
2. 身近な事象をよく観察して，見たことや感じたことを身体で表す行為がダンスであるならば，同時代を生きていても，地域が異なれば，おのずとその表現も違うはずです．また生きる時代が違っても，地域が同じならば，その表現には共通するものがあるはずです．そこで，宮崎を拠点に活動する振付家・ダンサーと共同で，「地域らしい」表現やダンスを探り，上演します．

今年度の研究計画に沿い，<表2>に示す主催・共催事業を行なった．★印は，「みやざき学として取り組んだ活動である．

〈表2〉　平成21年度の主な活動（高橋るみ子）

(2009)	4.06～	センスアップ・エクササイズ(～2010.3.31)　※毎週水曜日
	4.24	★はじめてのコンテンポラリー・ダンス part2
	5.12～	感性を拓く表現あそびin第一幼稚園(三股町)（～11.5 ）※計6回
	5.19～	感性を拓く表現あそびin綾(～2010.2.25)　※町立保育所3園，計7回
	6.09	感性を拓く表現あそびin西都（第1回）　※市立保育所7園
	6.21,22	山下残（振付家・演出家）によるコンテンポラリー・ダンスワークショップ
	6.26	★はじめてのコンテンポラリー・ダンス part3
	7.01～	感性を拓く表現あそびinあおぞら幼稚園（宮崎市）(～2010.3.18)　※ 計8回
	8.18	感性を拓く表現あそびin西都（第2回）　※市立保育所7園
	8.22	じゃがじゃがサマー・セミナー’09
	8.25	高橋るみ子・ダンスで拓く表現の世界「8th　踊るスポーツマン」
	9.09	感性を拓く表現あそびinひろせ幼稚園(宮崎市)
	11.26	★学校にコンテンポラリー・ダンスがやってくるin東郷小学校（日南市）
	12.10	Pre踊りに行くぜ　！vol.10　～宮崎公演～
	12.12	踊りに行くぜ！vol.10　～宮崎公演～
(2010)	1.11	親子であそぼう～感性をひらく表現あそび（西都市）
	1.29	★学校にコンテンポラリー・ダンスがやってくるin大東小学校（串間市）
	2.18	★学校にコンテンポラリー・ダンスがやってくるin那珂小学校（宮崎市）※ワークショップのみ

これらの活動は，報告者と児玉孝文，そして野邊壮平（みのわそうへい）が中心となり，舞踊学研究室とダンスグループ「踊るスポーツマン」，そして，NPO法人「MIYAZAKI C-DANCE CENTER」が協働で実施した．

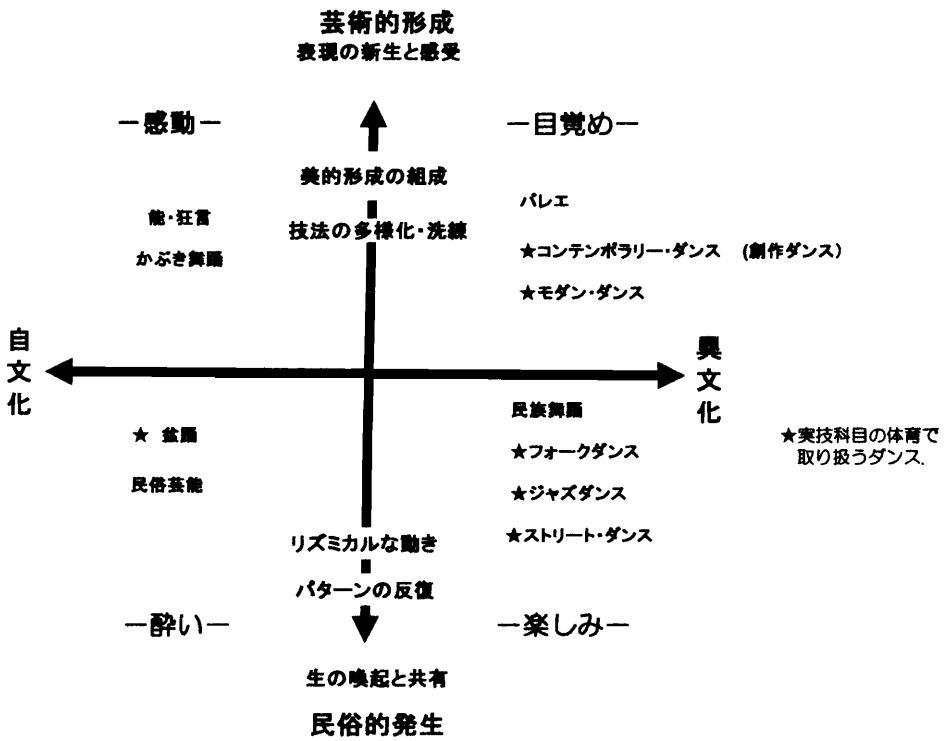
児玉と野邊は，ダンス・ユニット「んまつーポス」として，県内外で活躍する振付家・ダンサーである．今年度は，札幌，春日井（名古屋），東京，そしてソウルで自作品を上演した．児玉と野邊は，ダンス・ユニット「んまつーポス」として，県内外で活躍する振付家・ダンサーである．今年度は，札幌，春日井（名古屋），東京，そしてソウルで自作品を上演した．「踊るスポーツマン」（主宰：高橋るみ子）は，宮崎大学教育文化学部表現・創作ダンス研究グループを前身とする，県内唯一のコンテンポラリー・ダンスグループである．平成14年に旗揚げ公演を行ない，年1回，自主公演を行なってきた．今回を含む8公演の内，宮崎市文化振興基金事業として3回，「みやざき舞台芸術シリーズ」（後述）として1回，実施している．

NPO法人「MIYAZAKI C-DANCE CENTER」(以下「アートNPO」)は，県内初の，大学生（実際は，研究生と院生）が起業した認定NPO法人である．「んまつーポス」の野邊と児玉が，それぞれ代表理事と副代表理事となり，上質な上演活動の企画・運営や，子どもたちの身体表現・ダンスにかかわるプログラム等をコーディネイトする等，地域に根ざした美的創造的芸術活動を展開している．また，これらの活動には，オブザーバーとして，報告者と竹内元准教授（指導教員）が参加している．本プロジェクトは，アートNPOのメイン事業の一つである．

2. ダンス文化とコンテンポラリー・ダンス

コンテンポラリー・ダンスと，舞踊文化及び教育との関係を，〈図1〉に示した．舞踊学の松本千代栄氏が作図した「舞踊文化と教育」（「学校体育研究第18巻」所収，1994）を参考に，報告者が作成したものである．

〈図1〉 コンテンポラリー・ダンスと舞踊文化・教育



ダンスにも実に様々なジャンルがあり，人々は，「楽しみ」や「酔い」，あるいは「感動」や「目覚め」を求めて，好みのダンスを，踊り，創り，鑑賞してきた．“DANCE”の語源は，“Desire of Life”すなわち，生命の欲求を意味するという説がある（松本，1987）．そうしたダンスとの，殊に「目覚め」の機会を与えるダンスとの出会いがある日常は，新しい気づきをもたらし，

人々の精神を活性化する．しかし，本県では，バレエやモダン・ダンスを知る人はいても，「バレエでもなく，モダン・ダンスでもなく，なんとなく新しい，あのへんのダンス」（乗越，2003）と呼ばれるコンテンポラリー・ダンスについては，そうしたダンスがあるということを知っている人はわずかである．まして，コンテンポラリー・ダンスを“生”で観たことがあるという人は，さらに少ない．その根拠は，本県の芸術振興の進め方を見れば明らかとなる．

〈表 3〉は，メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）の今年度の主催事業（公演数）を，ジャンル別に分類したものである．

〈表 3〉 メディット県民文化センター　平成 21 年度主催事業のジャンル別公演数

音楽	17	注：「みやざきの舞台芸術シリーズ」の 3 公演を含む．
演劇	5	
舞踊	2	

演劇とダンスの公演数を合わせても音楽の公演数の 17 に及ばない．この自主事業とは別に，音楽には，「第 14 回宮崎国際音楽祭」もある．また，宮崎県立芸術劇場には，本県出身の芸術家の活動を応援する「みやざき舞台芸術シリーズ」というプログラムがあり，今年度の 3 プログラムのすべてが音楽であった．こうしたジャンルの偏りは，今年度に限ったことではなく，この偏りが良くも悪くも本県の芸術振興の実態と言うことであろう．しかし，ますます予算が削減される中で，振興の対象を分散するより音楽に特化する方が，県民のニーズに合っている，と考える市民は多いようである．したがって，ニーズが少ないからと手をこまねいているだけでは，舞踊はもちろん，コンテンポラリー・ダンスの状況は変わらない．

反バレエ，あるいは脱バレエを試行したフランス発の「ヌーヴェル・ダンス」が，本プロジェクトが取り扱うコンテンポラリー・ダンスの前身である．現在は，映像，音響，照明，美術，IT 等を複合的に導入した新しい表現方法を追求する「何でもありのダンス」として，革新的な運動を追究した「「ヌーヴェル・ダンス」とは区別されている．コンテンポラリー・ダンスは，バレエテクニックを母体としたバレエ団やダンスカンパニーによる集団的なダンスと，個人作家によるより実験的なダンスの二つがある．殊に後者は，文字，ビデオ，ファッションなど，様々なメディアを用いて，観客と感性（ユーモアー）や知性を共有することを目的とし，「んまつーポス」の二人がそうであるように，ソロやデュオなど，少人数による作品が多い．上演場所も，より小規模な劇場や，ギャラリー，時には屋外など，オルタナティヴなスペースが使われる．したがって，後者の個人作家による作品を上演する鑑賞教室ならば，小学校の体育館でも可能と言うことになる．

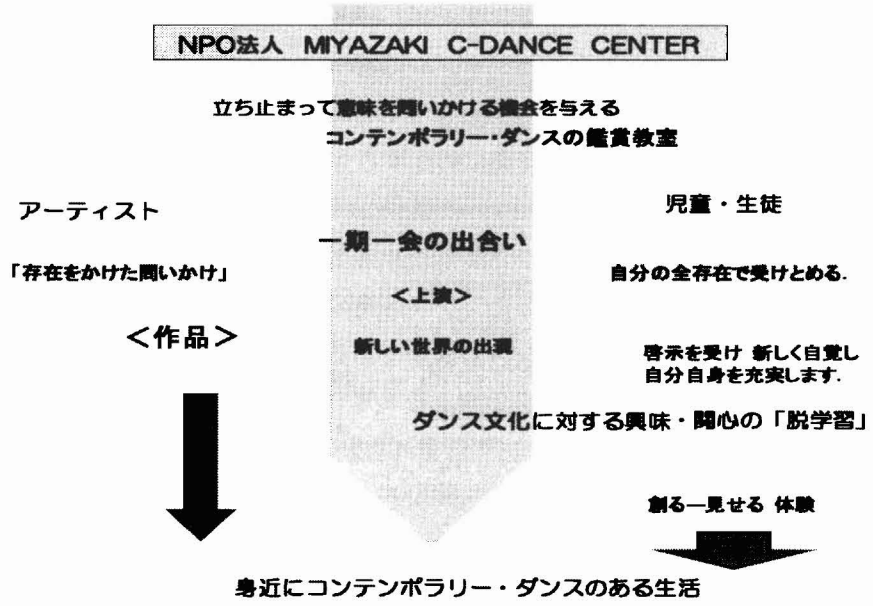
「コンテンポラリー・ダンスには，明確な定義はない」（乗越，2003）と言われながら，近年

は,「観客の存在をもって成立する創作的なダンスの総称」として,「コンテンポラリー・ダンス」の語が使われるようになっている.「んまつーポス」の二人が,コンテンポラリー・ダンスの振付家・ダンサーを目指すきっかけとなった,「大学生のための少人数による創作ダンスコンクール」(富山県)の表記も,「コンテンポラリー・ダンスコンクール」に変わっている.したがって,本プロジェクトも,学校文化でなじみのある「創作ダンス」ではなく,コンテンポラリー・ダンスの名称を採った.

3. 小学校にコンテンポラリー・ダンスがやって来る

学校文化の「創作ダンス」(小学校では「表現」)は,教科の体育にありながら,美的創造的芸術活動を取り扱う領域である.すなわち,社会文化のコンテンポラリー・ダンスの基礎を学ぶ領域であり,身近な「モノや事柄との新たな関わりを築いて,それらと自己の内的真実を探求し表現する」楽しさを,体験的に学ぶ領域である.すべてが消費の対象となるような現代にあって,「立ち止まって意味を考える機会を与える」という点で,体育でコンテンポラリー・ダンスの基礎を学ぶ教育はますます重要になるであろう.〈図 2〉は,本プロジェクトが期待する効果を図示したものである.

〈図 2〉 「小学校にコンテンポラリー・ダンスがやってくる」の期待される効果



宮崎の今を生きる子どもたちが,身近なモノや事柄との新たな関わりを築いて,それらと自己の内的真実を探求し表現する「創作ダンス」や「表現」は,「今の時代がもっている,まだ言語化されないほどレアでリアルな意識を形にしたもの」(乗越,2003)である.同じく,宮崎の今

を生きる振付家・ダンサーが，身近な「モノや事柄との新たな関わりを築いて，それらと自己の内的真実を探求し表現する」コンテンポラリー・ダンスは，「今の時代がもっている，まだ言語化されないほどレアでリアルな意識を形にしたもの」である．宮崎を拠点に芸術活動を展開する振付家・ダンサーの作品を鑑賞する場は，宮崎の子どもたちに，「立ち止まって意味を問いかける機会を与える」だけではなく，身近にダンスのある日常につながる体験でもある．

〈表 4〉 は，今年度に実施したダンス鑑賞教室の概要である．

〈表 4〉 平成 21 年度　ダンス鑑賞教室の概要

東郷小学校（日南市）

日　時 ： 平成21年
会　場 ： 東郷小学校体育館
内　容 ： ワークショップ＆鑑賞教室
講師＆アーティスト ：
　　んまつーポス （児玉孝文・みのわそうへい）
参加者 ： ワークショップ　　38名（4年生）
　　鑑賞教室　　121名（1～4年生）

大東小学校（串間市）

日　時 ： 平成22年
会　場 ： 大東小学校体育館
内　容 ： ワークショップ＆鑑賞教室
講師＆アーティスト ：
　　んまつーポス （児玉孝文・みのわそうへい）
参加者 ： ワークショップ　　24 名 （6年生）
　　鑑賞教室　　148 名 （1～6年生）
　　その他　教員・保護者

鑑賞教室プログラム
1. 風景の中の少年
2. 枝の上で考えたこと
3. 月がきれい
4. ワークショップ作品
5. 金の羽毛をもつトカゲのためのポスター
6. 親知らず

ワークショッププログラム
・ダンスウォームアップ
　ストレッチ　ジャンプ
・「暑い国から来たスパイ」

制作
舞踊学研究室
教育実践工房みやざき

写真 1・2　　鑑賞教室とセットで行なわれたワークショップの活動風景

4. 成果と課題

今年度の活動の成果を，東郷小学校（日南市）と大東小学校（串間市）の児童の感想文（自由記述）から探り，〈表5〉に示した．ただし，東郷小学校の感想文は鑑賞教室の当日に書かれたもので，大東小学校の感想文は，翌日から1週間の間に書かれたものである．その違いが，両校の数字に表れたと思われる．また，上演の最後に，東郷小学校の児童には，教師が，「楽しかったですか？」と質問し，大東小学校では，アーティストが，「またダンスが観たいですか？」と質問した．そうした学習の振り返りも数字の違いに影響していると思われる．

〈表5〉 鑑賞教室の成果 －児童の感想（自由記述）より－

	東郷小学校 1～4年生 （121名）	大東小学校 1～6年生 （148名）
またダンスが観たい	24.8 %	40.5 %
自分もやってみたい	7.4 %	8.1 %

大東小学校では，前述の「またダンスが観たいですか？」と問いかける前に，「難しかったですか?」，と質問した．それに対し，児童の半数が挙手したにもかかわらず，次の「またダンスが観たいですか」に対して，児童のほぼ全員が挙手した．「また観たい」といったダンスへの興味や関心は，時間の経過するに従い薄くなりはした．けれども，鑑賞した直後は，多くの児童が，「難しい，わからない」けれど「おもしろい，また観たい」と意思表示したということは，報告者らが期待したような，難しいことやわからないことにも「おもしろい」ものがあると考えた児童がいたということである．あるいは，難しい，わからないから「また観たい」と考えた児童がいた，と言うことである．

写真3
作品『金の羽毛をもつ
トカゲのためのポスター』
（作：児玉，出演：児玉・みのわ）

〈表 6〉に，実践を通して見えてきた課題をまとめた．

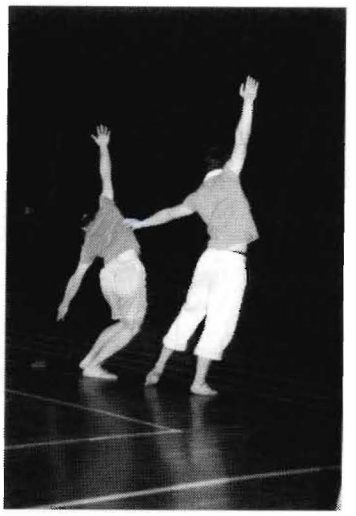
〈表 6〉 本プロジェクトの課題

課題 1　県内の小学校の多くの鑑賞教室が取り扱う内容は，音楽や演劇である．コンテンポラリー・ダンスを取り扱った前例がない．

課題 2　音楽や美術のような芸術教科には，「表現」と「鑑賞」の領域がある．同じ美的創造的芸術体験を内容としながら，体育の表現運動には「鑑賞」が位置づいていない．

課題 3　ダンス文化について関心のある先生が少ない．ダンス文化の学習として，表現運動を捉えている先生が少ない．

課題 4　言葉から，コンテンポラリー・ダンスの鑑賞会は低学年には難しい，と考えている先生（自身は観たことがない）が多い．



これらの課題を解決するために，次年度の広報用のチラシを作成した．デザイン等の制作は，舞踊学研究室の豊福彬文（学校教育課程 3 年）と宗彩乃（同 3 年）が担当した．チラシでは，キャッチ・コピーに，児童のダンス鑑賞教室の感想文を採用したが，採用した感想だけではなく，他にも，子どもたちが，「立ち止まって意味を考えた」ことが伝わってくる感想を抽出することができた．それらを〈表 7〉に示す．殊に，★印をつけた感想は，本プロジェクトの関係者を勇気づけるものであった．

〈表 7〉 子どもたちの鑑賞教室子の感想

〈1 年生〉 ★「**なんか**おもしろいダンスをしてくださっておもしろかったです．」（東郷小）

「んまつーポスの人は**何で**この踊りを考えたんですか．」（東郷小）

「**なぜ**あんなに高くとべたんですか．」（大東小）

★「猛毒のトカゲの左足をあげて歩くのは難しそうだったから，実際にすると倒れてばかりだったから，**どうやったら**左足を上げて歩けますか？」（大東小）

「最初は**どこ**に行ってダンスを覚えたんですか．」（大東小）

〈2 年生〉 「**なんか**足と手がついたり離れたりしてすごかったです．」（東郷小）

★「今日のダンスを見て**びっくり**しました．人がトカゲの踊りをしました．」（東郷小）

★「わたしは，一番おもしろかったダンスは全部です．」（東郷小・大東小）

「ジャンプがすごかったです．**足の裏にバネがあるのかな**と思いました．」（大東小）

「オオカミかトラかライオンか**わからない**動きで楽しかったです．」（大東小）

★「月がきれいできれいで**たまらなくなって**，「月がきれい」が心に残りました．また月が見たいです．」（大東小）

「ダンスが心に残って**もう一度みたい**です.」(大東小)

「はじめて見てちょっと難しいなと思いました. **考えてみると**ちょっとわかりました.」(大東小)

〈3年生〉 ★「今日の夜に月を見てみたいです.」(東郷小)

「ときどき「**何メートル**とんでいるんだろう」と思ったりしました.」(東郷小)

「二つとも雰囲気が違っていてドキドキわくわくしました. 私もバレエをしていて, 同じバレエをしていても**違いがあることに気がつきました**.」(東郷小)

〈4年生〉 ★「ぼくが一番気に入ったのは, 児玉孝文さんとみのわそうへいさんでした.」(東郷小)

「2人で抱きついて**恥ずかしくないのかな**と思いました.」(東郷小)

「跳んだり回ったりして疲れていても1年生〜4年生のためにがんばっているんだなと思いました.」(東郷小)

★「ダンスを見るのはこれで2度目なので, どんなことをするのかわかっているつもりだったけれど ぼくが考えていたのと全然ちがったのでとてもおもしろかったです.」(東郷小)

コンテンポラリー・ダンスの鑑賞教室とは, 必要を「満たす」ための場(トポス)ではなく, 鑑賞して初めて必要を「発見する」場である. 子どもたちに, コンテンポラリー・ダンスを「鑑賞させてしまえば」もう「勝ち」なのである[2].

5. おわりに

県内の小学校でコンテンポラリー・ダンスの鑑賞教室を実施するプロジェクトは, 「みやざき学」の趣旨とは少し異なる. しかし, 世界を視野に入れた活動の拠点として, 敢えて地方(宮崎)を選ぶ若い人材や, そうした人材が立ち上げたNPO法人は, 宮崎のオルタナティヴな魅力であり, 個性であり, 潜在能力ではないかと考えている.

他方, 若い人材に対し, 中央で活躍しなさい, ぬるま湯のような宮崎に居てはだめだ, 宮崎(のような地方)は中央で活躍した人を評価するから, といった助言もよく耳にする. しかし, 逆に, 「ぬるま湯のような」宮崎だからこそ, 若い人が挑戦できることもある. 実際, 「んまつーポス」やアートNPOの活動と併せて, それを可能にする地域や人に, 興味・関心を示すアーティストや団体も多い. したがって, 「学校にコンテンポラリー・ダンスがやって来る」が全国に知れわたり, 自分も宮崎の子どもたちの前で踊りたい, と県外から若いアーティストが参集するようなことも考えられる. そして, それは意外に近い将来かもしれない.

最後に, ここ宮崎を拠点に活動する振付家・ダンサーが育ち, そうした彼らの作品を鑑賞する場ができて, ようやく舞踊学研究室の研究教育活動が循環する(〈図3〉参照). 「んまつーポス」に続くアーティストの養成が, スムーズな循環の課題である.

〈図 3〉 舞踊学研究室の教育と研究

注・参考文献

1) 佐々木（美学）は，芸術作品を対象とする美的体験（芸術鑑賞）について，「絶えず意味を探求し，さまざまな解釈の可能性を比較考量しつつ，全体の思想を把握するという，感覚的で技術的，かつ知的な，多層的理解の，力動的なプロセスをいう」と定義している．また，美的体験の特徴について，対象の「何」とともに「いかに」が問題であり，対象の表象的な「何」が認識されたあとも，われわれは見続ける．美的体験は，発見的である．われわれの精神は常に何かを捉えようとしている．特定の目的があって，それを求めているわけではなく，あらゆる可能な発見を注意深く待ち受けているのである．
と述べている．美的体験佐々木健一，美学辞典，東京大学出版会 1995k, pp. 227～228

2) 鹿島茂，「デパート文化空間必要」, 朝日新聞掲載，2010. 2. 10

1. 佐々木健一，美学辞典，東京大学出版会 1995k, pp. 227～228
2. 佐藤学・今井康雄編，子どもたちの想像力を育む－アート教育の思想と実践，東京大学出会，2003
3. 乗越たかお，コンテンポラリー・ダンス徹底ガイド，作品社，2003
4. 舞踊文化と教育研究の会編，松本千代栄撰集 1 －舞踊論叢，明治図書，2008
5. 松本千代栄，舞踊文化－運動象徴と共感の世界－，ダンス教育の原論，ダンスの教育学 1，徳間書店，1992，pp. 10～12
6. 松本千代栄，舞踊鑑賞，女子体育，35 巻 12 号，1993，pp. 4～7